

「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当する 薬剤の一般名と医薬品コード一覧

2018年3月12日

利用にあたって

1. 作成の経緯

「高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015」が作成されて以降、高齢者の薬物療法に関する研究および診療などに利用されるようになった。なかでも「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」は、注意喚起や処方薬の見直しなどに利用されることも多い。

しかしながら、「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」には薬物の一般名にしても、すべて列挙されているわけではなく、利用者によって該当薬の選択が異なる事例もみられた。また、具体的にどの薬剤がリストに該当するのか明確にしてほしいという要望等も寄せられた。そこで、下記の研究班および研究協力者により、上梓されている薬剤で該当するものをすべて選択し、さらに電子的利用が可能ないようにコード（薬価基準収載医薬品コードと国際的な ATC コード）を付す作業を行った。最終的に、日本老年医学会ならびに日本老年薬学会の承認を経て、それぞれの学会ホームページに公開することとなった。

2. 利用方法

本一覧はエクセルで作成されており、研究者、薬局、保険者等による電子的な利用を念頭に作成された。その他、高齢者の服用薬が「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に該当するかどうか個々に確認したい場合に、マニュアルで照合することにも利用できる。

3. 利用上の注意

本一覧下段および「特に慎重な投与を要する薬物のリスト」に記載されているリストの＜使い方＞に従い、特に一般の方が目にしても自己中断をしないように十分な指導を行う点などに留意して利用いただきたい。

また、本一覧上段にある＜利用上の留意点＞にも注意いただきたい。2017年2月時点で薬価収載されている医薬品を対象としており、参照いただいた時点で発売中止になっている可能性もある。そのような点を含めて、要修正箇所をみつけられたら、是非とも日本老年医学会あるいは日本老年薬学会事務局へ連絡いただきたい。皆様のご意見もいただきながら適宜アップデートしていく予定である。

<作成メンバー>

日本医療研究開発機構研究費

「高齢者の多剤処方見直しのための医師・薬剤師連携ガイド作成に関する研究」研究班

■研究代表者

秋下雅弘 東京大学医学部附属病院老年病科

■分担研究者（五十音順）

荒井秀典 国立長寿医療研究センター

大井一弥 鈴鹿医療科学大学薬学部

大河内二郎 介護老人保健施設竜間之郷

大野能之 東京大学医学部附属病院薬剤部

恩田光子 大阪薬科大学社会薬学・薬局管理学研究室

小島太郎 東京大学医学部附属病院老年病科

杉浦伸一 同志社女子大学薬学部医療薬学科

高瀬義昌 たかせクリニック

溝神文博 国立長寿医療研究センター

矢野育子 神戸大学医学部附属病院薬剤部

山浦克典 慶應義塾大学薬学部医療薬学・社会連携センター

山口 潔 ふくろうクリニック等々力

楽木宏実 大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科学

■研究協力者（五十音順）

野村香織 東京慈恵会医科大学分子疫学研究部

赤沢 学 明治薬科大学公衆衛生・疫学研究室

石井伸弥 東京大学医学部附属病院老年病科

（株）データホライゾン